

「幡多はひとつ」 幡多の人づくり 学校づくり 教育風土づくり

～「きらっと いきいき あったかい」幡多の教育を目指して～

西部教育事務所は、高知県西部に位置する6市町村（四万十市、土佐清水市、宿毛市、黒潮町、三原村、大月町）を所管しており、管内には小学校30校、中学校14校があります。これまで私たちは「幡多はひとつ」の合言葉のもと、学校・地域・行政が一体となって「幡多の人づくり、学校づくり、教育風土づくり」に取り組んでまいりました。少子化が進む幡多地域において、この広域連携の取組をいっそう深化させることが、これからの幡多の教育の鍵となります。

さて、昨年9月に公表された中央教育審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」では、次期学習指導要領に向けた基本的な考え方として、自らの人生を舵取りすることができる「社会の創り手」を育むため、①主体的・対話的で深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保、という3つの方向性が示されました。なかでも「深い学びの実装」は、本事務所が掲げてきた「授業で力をつける」取組の延長線上にあるものです。次期学習指導要領は決して現行と切り離された新しいものではなく、皆様の真摯な実践の積み重ねと地続きであり、「授業で力をつける」ことを地道に継続した先にあるものだと考えます。

西部教育事務所では、今年度も「授業で力をつける」を合言葉に、以下の3つの柱を設定し、取組を推進してまいります。

1つ目は、「授業を変える」です。資質・能力の「構造化」を図り、子供たちが知識を相互に関連付けて深く理解し、未知の状況でも活用できる「思考力・判断力・表現力」を育成する授業を目指し、各学校の授業改善を支援していきます。単に「教科書を教える」のではなく、教科書という素材を用いて本質的な資質・能力を育む「教科書で教える」授業への転換を支援し、資質・能力の一体的な育成を目指します。

2つ目は、「人を育てる」です。大量退職に伴う若手教員の増加や、子供たちの多様化など、管内においても「人を育てる力」の向上が急務となっています。学級や学校の枠を越えて教員同士が学び合う仕組みを構築し、組織として人を育てる学校を支援していきます。

3つ目は、「学びの土台を築く」です。全ての学習の基盤となる「情報活用能力」の向上を支援し、デジタル技術を自在に活用して課題解決ができる人材を育成します。同時に、子供たちの多様性を包摂し、誰一人取り残さない「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、豊かな教育環境を整備します。あわせて、授業と授業外の学習をつなげるシームレスな学びを実現し、確固たる学びの土台を築いていきたいと考えています。さらに、これらの教育の質を高めるため、標準授業時数の弾力化などを通じて教師と子供の双方に「余白」を創出し、持続可能な教育課程の編成を支援してまいります。

今年度も、「幡多はひとつ」という理念を大切に、学校・地域・行政が一つとなって取組を推進してまいります。そして、“未来から託された大切な宝物である子供たち”のために、管内全ての学校で「きらっと いきいき あったかい」教育が実現されるよう、丁寧な支援に努め、信頼される教育事務所を目指して取組を進めてまいります。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。